

妙安寺だより 法話特集号

仏説 桃太郎（最終回）

桃太郎は、サル・トリ・イヌを従えて鬼が島へと出発しました。
考えて見ますと、桃太郎と三匹の動物で鬼を退治することができるでしょうか。

そこで、桃＝百として考えてみると、作戦部隊（サル百匹）・攻撃部隊（トリ百羽）・守備部隊（イヌ百匹）として、暴れん坊の鬼たちを退治し、宝物を頂戴し無事に村に帰り、おじいさんとおばあさんと幸せに暮らしました。

その後、サルは猿かに合戦に・トリは舌きり雀に・イヌは花咲じいさんへ登場していきますが真偽は不明。

芥川龍之介は桃太郎のパロディーとして、怠け者で乱暴な桃太郎が、平和に暮らす鬼の島を侵略し、略奪するという物語を描きました。

ちなみに、桃太郎の話がはやると、戦争が起きるといふ忌まわしい関係があるそうです。

明治27年、の『桃太郎』が発表された時には日清戦争が起こり、昭和8～9年、の『桃太郎遠征記』が発表された時には日中戦争から太平洋戦争と突入していきました。

話があちらこちらに飛び、また長々となりましたが、この話が、いかにして仏教的に結びつくのか？

主人公の桃太郎というのは、私たち（自分自身）のことであり、この世に生を受けてからは、親の愛情と恩・徳を受けて育ち、これから先、生きていくためには、山あり谷あり、さらに紆余曲折の人生を過ごしていかなければなりません。生活は、贅沢をせずに質素に、自分にあった生活をしなればなりません。

他人と同じような生活を望むのは無理なことなのです。一人ひとり顔が違うように、自分たちと他人とは生活環境が違うことを知らなければなりません。

私たちは、自分自身の心の中にある、迷いや煩惱などを、勇気と智慧と恩を持って断ち切らなければなりません。それによって、私たちは人生の宝物（家内安全と家族の安泰）を得ることができ、幸せな家庭生活を作ることが出来るのです。

ちなみに、節分の時に「鬼は外 福は内」と唱えながら豆を撒きます。

これは、自分の心の中に鬼（迷いや煩惱）を追い出して、福（幸せ）を呼ぶことなのです。

皆さんも、一人ひとり桃太郎となって、心の中の鬼を退治したらいかがでしょうか。

